

# 人。まち。暮らし。をつなぐ橋

自宅にいながら仕事をしたり授業を受けたりという新しい生活様式は、ここ数年で急速に普及してきている。働き方、暮らし方も大きな変革の時を迎えている今、南栗橋地区を舞台としたまちづくりのプロジェクトに、全国から熱い視線が注がれている。

## 最新の技術と設備を採用 持続可能なまちづくり

昨年11月、久喜市と一般企業、そして大学の5者による、次世代のまちづくりプロジェクトが発表された。BRIDGE LIFE Platform構想に参画したのは久喜市、東武鉄道株式会社（以下、東武鉄道）、トヨタホーム株式会社（以下、トヨタホーム）、イオンリテール株式会社（以下、イオンリテール）、そして早稲田大学大学院 環境・エネルギー研究科 小野田弘士研究室（以下、早稲田大学小野田研究室）の5者。プロジェクト名の「BRIDGE（橋）」には、人と人、人と未来、人と健康など、人と周囲のさまざまなものが受け持つ戸建街区は、先進設備を採用したスマートタウンとしてリモート環境の整備と、各所への防犯カメラ設置、無電柱化、地盤強化などに努める。さらに、クラブハウスの整備により、住民間でのイベントやワークショップなども実施が可能となる。最新の技術とサービスの備わった、子どもから年配者まで誰もが安心して暮らしやすいまちとして設計されている。

## 人々の交流の場から 新しい文化の芽吹きを願う

5者の連携による試みは全国でも珍しい。「このプロジェクトを発表した直後に、他市の自治体の知人から、どのように進めたのかと問い合わせがありました。最近では、わざわざ石川県から視察に来られましたね」と、諏訪さんは続ける。

久喜市は、遊歩道や公園のリニューアルなどを担当する傍ら、各社の窓口となり調整役を務めた。驚かされたのは、各企業・大学の開発にかける熱量だ。会議では前向きな意見を活発に出し、フットワークが軽く、判断も早い。「なにより、この地域を良いものにしてほしいという熱意が伝わり、とてもありがたく感じました。私たちもそのスピード感と情熱に負けないよう、迅速な対応を心掛けました」と、同課の東浦仁美さんも笑顔を見せる。

プロジェクトの発表から半年を経

### BRIDGE LIFE Platform

## 4つの街区でつくられるまち

※写真はイメージです

### 戸建街区・クラブハウス

トヨタホーム、東武鉄道

環境負荷に配慮した都市設計のなされたサステナブルシティを目指す。人々が暮らすために必要なエネルギーの消費を最小に抑え、二酸化炭素の排出も削減



### 商業街区

イオンリテール

スーパーマーケットなど2棟の商業施設が開業。生活必需品を取り揃えるとともに、同社初の取り組みとなるドッグランを併設。高い利便性だけでなく、コミュニティ形成の場でもある



### 生活便利街区

東武鉄道

高齢化を迎える周辺エリアの人々や、新たに住まうファミリー層のため、シニア施設や保育所を誘致。健康で幸せに暮らしながらコミュニケーションを図れる場所をつくる



### 遊歩道・公園等

久喜市

郊外の利点であるリラックスして過ごせる空間をつくる。遊歩道や桜並木沿いにベンチを設け、人々が気軽に集まり交流できる場所を創出。大きな公園のリニューアルなども予定



## 南栗橋地区全体のイメージイラスト

写真はイメージです



商業街区から歩行者専用道路を抜けて戸建街区へと荷物を運ぶ自動配送ロボット

## 次世代技術に基づく取組み

早稲田大学 小野田研究室

自動配送ロボットの実証実験をはじめとした、次世代モビリティシステムの導入を検討。環境配慮など社会課題の解決とともに、住民の利便性向上を目指す



久喜市建設部 都市計画課

担当主査 東浦仁美さん 主任 諏訪太輝さん

information

久喜市役所

久喜市下早見85番地の3  
TEL. 0480-22-1111(代表)

戸建街区のクラブハウスを始め、他の街区にも自然に人が集まり、コミュニティを育む仕掛けが施されている。いずれここからイベントや地域活動も生まれてくるだろう。それらが根付けば、新たな文化が誕生することになる。BRIDGEは、未来へつなぐ橋でもあった。その名に込められた思いが、形になる日を期待して待とう。

つなぐ架け橋になるようにとの思いが込められている。まちづくりの構想は平成20年代からあった、と久喜市役所建設部都市計画課の諏訪太輝さんは話す。当時から、東武鉄道の所有する土地の活用について、久喜市に相談が寄せられていたのだ。時を経て、そのエリアを中心に、今回のプロジェクトがスタートした。対象となったのは、南栗橋駅の南西約500メートルに位置する、久喜市南栗橋8丁目及びその周辺の地区。豊かな自然に恵まれたエリアであり、東武鉄道が都心へと通じている。仕事はもちろん、家族との時間や子育てのしやすさなど、プライベートも充実させたいというファミリー層の希望に沿ったまちづくりを目指す。開発エリアは4つの街区に分けられ、それぞれ「戸建街区・クラブハウス」「商業街区」「生活便利街区」「遊歩道・公園等」と呼ばれている。これに加えて、早稲田大学小野田研究室による、自動配送ロボットの実証実験など、住民の利便性向上を目指す取組みを行っている。特徴的なのは各企業・大学が単独で開発を進めるのではなく、5者が密に連携してまちづくりを進める点だ。協定には、「対象地区の再生・魅力向上」や「持続可能なまちづくり」などが記されている。例えば、トヨタホームと東武鉄道